

また一段

学科長 矢澤 達宏

またひとつ春を迎えました。あなたがたは昨春から一段、階段を上りました。景色が違って見え、成長を実感している人もいるでしょう。あまり違いを感じられず、成長したのかどうか疑問に思っている人もいるでしょう。それでも来春か、再来春か、きっと新しい景色を目にするときが来るはずです。ただ、それは二段とばし、三段とばしで一気に駆け上ったのではたぶんありません。実感なき一段も、それがたしかに自分の足で上ったものであるのなら、無意識のうちに将来の飛躍の糧になっているのだと思います。

そしていま、あなたがたはまた一段、あらたなステップを前にしています。臆せず、しかし気負いすぎず、しっかりと目の前の階段に足をかけましょう。

新入生の皆さん、上智のポルトガル語学科という「階段 (escada)」へようこそ。ことばに興味のある人は、未知の言語を学んでいくことにきっと楽しさを感じることでしょう。しかし、上達には辛抱強い努力も求められます。ひとびとの営みの方に興味のある人は、言語の習得に苦痛を感じるかもしれません。でも、ポルトガルの、ブラジルの、その他のポルトガル語を話すひとびとの営みや考えていることを本当の意味で理解したいのなら、ことばは不可欠です。そして、ことばにも、ひとびとの営みにも、これまでとくに関心がなかったという人、「食わず嫌い」は損こそあれ得などありません。ポルトガル語圏の世界に心を開いてみましょう。ポルトガル語に触れようと、ひとびとについて知ろうとしてください。何事であれ、心を閉ざしたままでは、その真価を知ることはできません。

新二年生の皆さんは、ポルトガル語の学習は基礎的なレベルを終え、会話にせよ読解にせよ、より実践的な力を養う段階に入ります。難度の上がる時期ですが、いまこそ踏ん張りどころです。留学や専門的な学習への準備など、正直しんどいかもしれませんが、気持ちを切らさず、くいさがってください。

新三年生の皆さんは、ことばの習得をひととおり終え、今度はそれを活かして自分の学びを深めていく段階に入ります。大学における勉学のハイライトといっても過言ではありません。やらされる勉強ではなく、いかに主体的に学べるかが鍵となります。将来も見据えながら、やりたいことを勉学へと結びつけ、自分ならではの学びを発展させていってください。

新四年生の皆さんは、就職活動等、卒業後の進路について迷い、心せわしい時期かもしれません。避けては通れぬ道ではありますが、どうか自分を見失わないように。迷ったときには、自身としっかり向き合ってほしいと思います。そして、大学最後の一年であることも忘れずに、四年間の集大成となるよう、学びにもその他の活動にも、存分に取り組んでください。